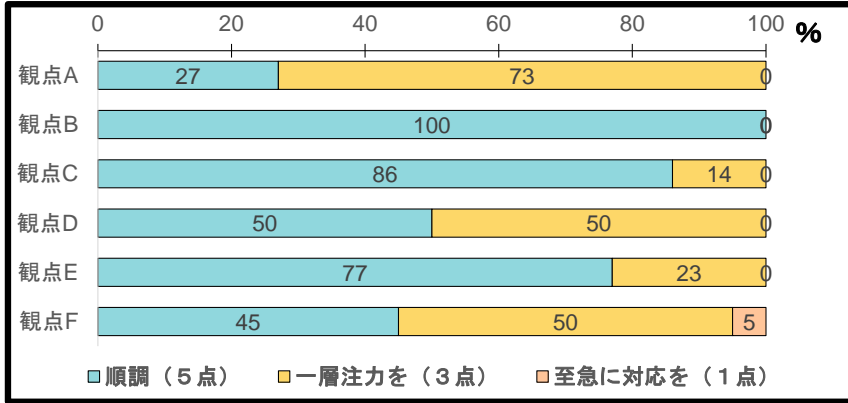


相互評価ルーブリック・記述コメント 集計

今後の研究の進め方 や 最終発表の際 の参考にしてください。

1 班への評価 (ルーブリック)

22 人が回答



スコア

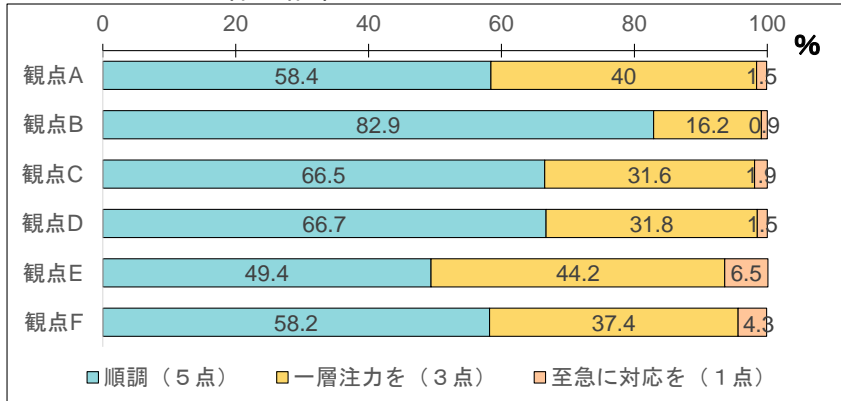
A	3.5
B	5.0
C	4.7
D	4.0
E	4.5
F	3.8

1 班へのコメント (記述欄)

実際に折れた写真などがあればわかりやすいと思います

全体の結果

延べ462 人が回答



平均スコア

A	4.1
B	4.6
C	4.3
D	4.3
E	3.9
F	4.1

年 組 番 名前:

令和3年度 SSH科学のもり
ブルーフII 中間発表会 R3.09.11

相互評価ルーブリックシート

※ 他班の発表を1つ聴くごとに1枚記入。のちに Google フォームへ入力・回答。

分 野 : 物 ・ 化 ・ 生 ・ 地 ・ 数 情
班 番 号 : 『 』 班
発表タイトル : 『 』

評価の観点	より良い		
	1 至急に対応を	2 一層の注力を	3 順 調
A 伝える力 発表の体裁 話・ポスター 質疑応答	発表の準備が十分にされていない様子である。話の順序が研究の過程に沿っていない。聴く側にとって分かりづらい専門的な言葉が多すぎる。スピードが遅すぎるなど、分かりにくさや段取りの悪さが目立つ。	発表の準備がある程度されている様子である。話の順序、声の大きさ、話やポスターの内容に目立った問題がなく平均的である。	発表の準備が十分されている様子である。伝える情報が適切に選択選択されており、洗練されている。話やポスター内容に、他班とは異なる、秀でた工夫や印象に残る要素がある。
B 課題の設定 明確な目的	今回の研究で明らかにしたい点・挑みたい課題がはっきりと示されていない。	今回の研究で明らかにしたい点・挑みたい課題について示しているが、聴く側にとって分かりづらい部分が多い。	今回の研究で明らかにしたい点・挑みたい課題について明確かつ分かりやすく述べている。
C 研究の意義 有用性の有無 先行研究の把握	研究の有用性(研究目的が達成されること)のように社会において役立つのか)や先行研究の様子について特に述べられておらず、有用であるか分からない。	研究の有用性(研究目的が達成されること)のように社会において役立つのか)や先行研究の様子について述べられているが、有用であると感しない。	研究の有用性(研究目的が達成されること)のような分野の役立つのか)や先行研究の様子について述べられており、有用であると感する。
D 道すじ・手法 論理展開 研究手段 内容の高度さ	「この実験で何が分かるのか」「なぜこの実験で研究の目的達成に近づくのか」といった、研究・実験開始までの論理の展開、研究・実験の原理について具体的に述べられていない。または、述べられているが分かりづら。または、論理がおかしと感する。聴く側が、実験の手順や用いた道具・用いた数式やプログラム内容について具体的なイメージを持っていない。または、適当な手法ではないと感する。	「この実験で何が分かるのか」「なぜこの実験で研究の目的達成に近づくのか」といった、研究・実験開始までの論理の展開、研究・実験の原理について明確に分りやすく述べられているが、多くの人が簡単に思いついたり実行したりできそうである。聴く側が、実験の手順や用いた道具・用いた数式やプログラム内容について具体的なイメージを持っていて、内容が難しいと感する。	「この実験で何が分かるのか」「なぜこの実験で研究の目的達成に近づくのか」といった、研究・実験開始までの論理の展開、研究・実験の原理について明確に分りやすく述べられており、専門性の高さもあると感する。数式やプログラム内容について具体的なイメージを持っていて、内容も高度であると感する。
E 研究の活力 試行回数・手法修正 PDCA	実験を行っていない、または実験を行っているが、考察につなげられる(研究の目的に近づく)ようなデータを得られていない。	1種類は実験や試行を行ってデータ・結果を得ており、結果に対する考察も試みている。	データ量や試行回数が多く、考察もよく進んでおり、考察に基づいて次の種類の実験に進むこともできている。効率よくスピード感をもって研究を進めている様子である。
F 研究の深度 考察の論理性 考察の信憑性	実験や試行で得たデータ・結果を紹介するだけに留まっており、考察(何が分かったか・次どうするか)を述べられていない。	実験や試行で得たデータ・結果に対する考察(何が分かったか・次どうするか)を述べられているが、内容に不確かな部分や適当でないと感じる部分が多いと感する。	実験や試行で得たデータ・結果に対する考察(何が分かったか・次どうするか)を明確に分りやすく述べられており、内容も妥当だと感する。「たぶん○○ではないか」、「○○っぽい」といった想像の域に留まる部分が多いと感する。先行研究や文献の情報にも沿って研究を進められている様子である。